

グループ中期経営計画2020

From
TBS



「グループ中期経営計画2018」から「2020」へ

	18年度計画値	16年度実績値	差異
連結売上高	3,730億円	3,553億円	△176億円
連結営業利益	195億円	198億円	+3億円
売上高営業利益率	5.2%	5.6%	+0.4ポイント

2018年度の目標「連結営業利益」「売上高営業利益率」、
初年度の2016年度に達成



「グループ中期経営計画2020」へ

「グループ中期経営計画2020」について

放送・通信融合の時代、ポスト2020年東京オリンピック・パラリンピック時代を見据え、TBSグループの基盤を一層強化するため、3つのアプローチで目指します

1 TBSテレビの競争力向上
最強・最良コンテンツを創出

2 TBSシナジーを生む
総合メディアの多様化と挑戦

3 TBSグループが果たすべき
社会的責任の遂行

TBSクオリティの確立

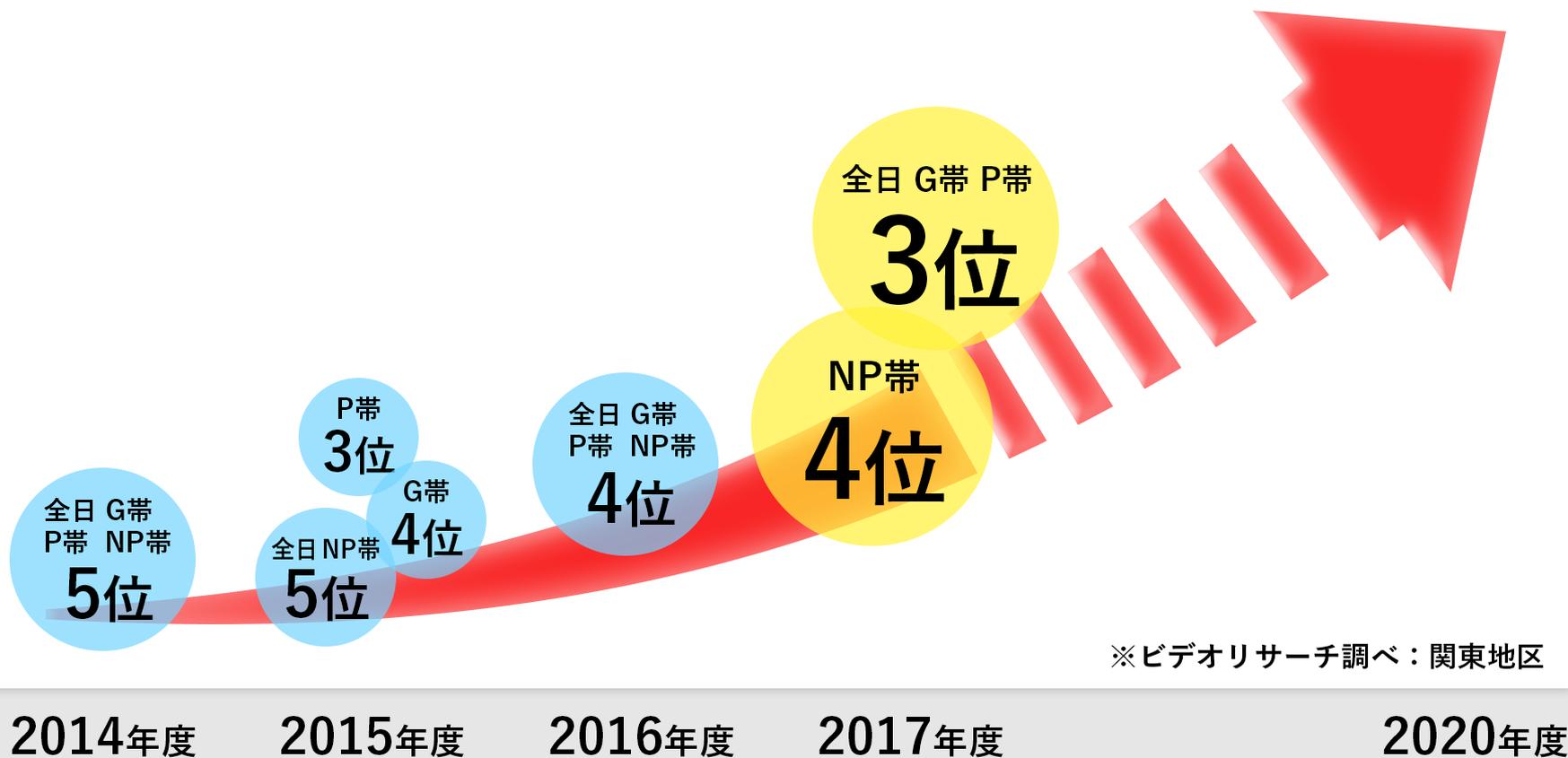


1 TBSテレビの競争力向上 最強・最良コンテンツを創出

1 TBSテレビの競争力向上 最強・最良コンテンツを創出

TBSテレビ世帯視聴率の順位

(地上波6局 2017年12月31日現在)



1 TBSテレビの競争力向上
最強・最良コンテンツを創出

2020年度の目標
視聴率 **2位以上**

- ・世帯視聴率(全日、G帯、P帯、NP帯)
- ・個人視聴率、特に「ファミリーコア(男女13~59才)」

コンテンツ強化が最優先

圧倒的な信頼性を誇る報道機関

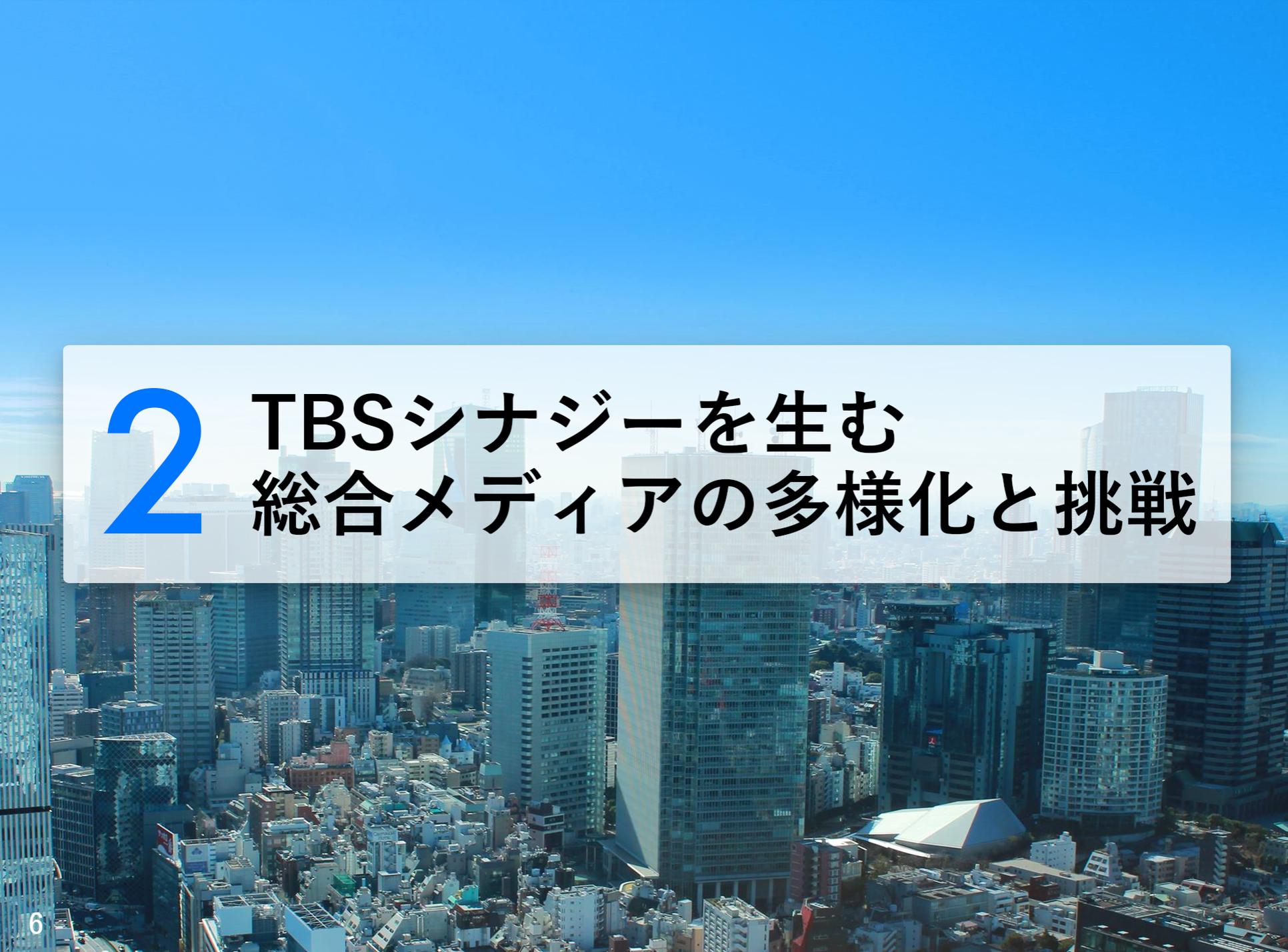
どこよりも早く、
分かり易く、
正確な情報を提供できる体制

- ・ネットワーク各局との連携の充実
- ・SNSや配信、テキストサイトの強化

人の心に響くエンタテインメントを提供

喜び、感動を伝える
ドラマ、バラエティ、
ドキュメンタリーを制作

- ・TBS独自のテレビ制作力の継承及び発展
- ・マルチユースを念頭においたコンテンツ開発

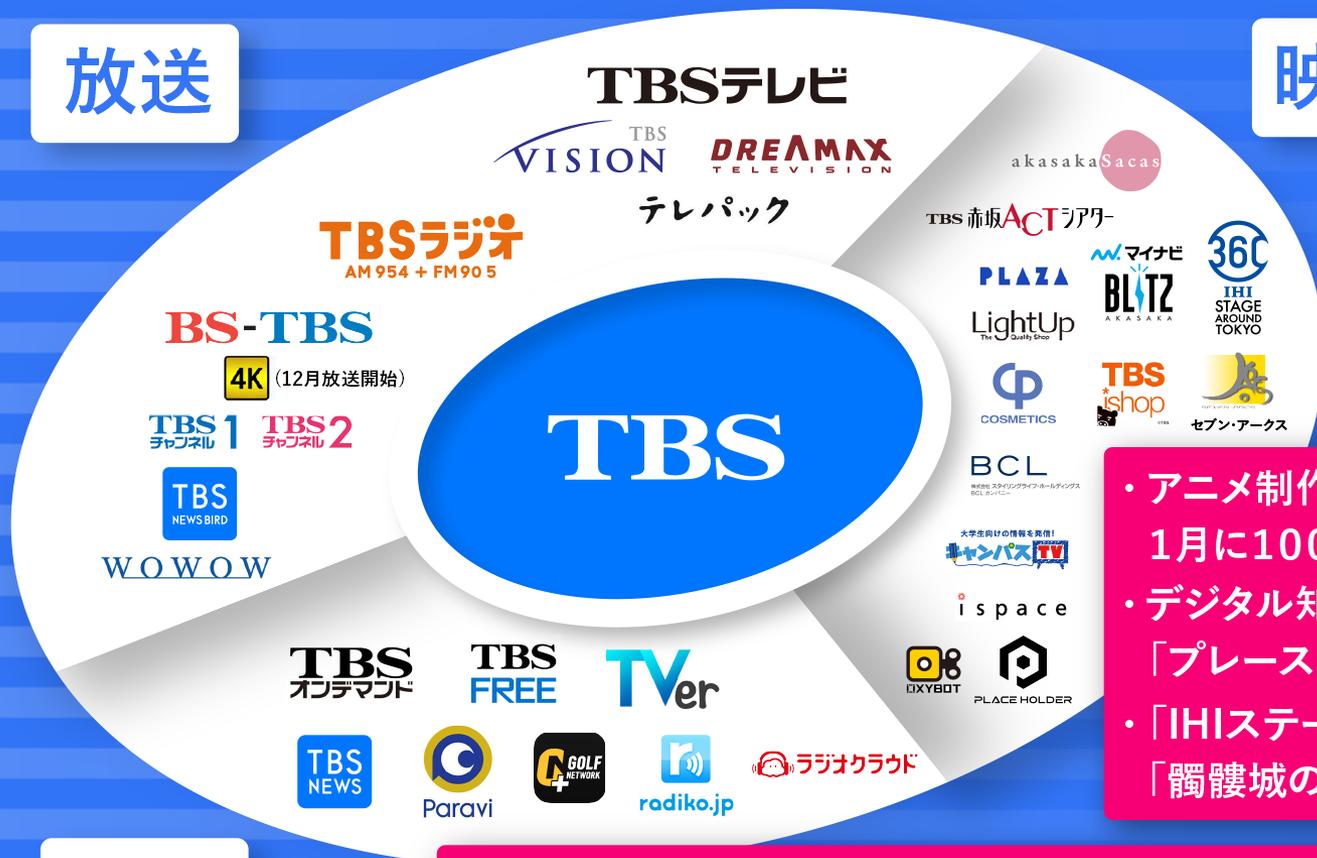


2 TBSシナジーを生む 総合メディアの多様化と挑戦

2 TBSシナジーを生む 総合メディアの多様化と挑戦

放送

映像・文化



- ・アニメ制作「セブン・アークスグループ」1月に100%子会社化
- ・デジタル知育コンテンツを開発「プレースホルダ」に2月出資
- ・「IHIステージアROUND東京」「髑髏城の七人」に続く新作

配信

- ・有料動画配信「Paravi」、4月からサービス本格開始
- ・「ゴルフネットワークプラス」アプリによる動画配信



グループの構造を見直し、グループの力を結集



新たな挑戦 ～領域の拡張と進化～

TBS宇宙プロジェクト

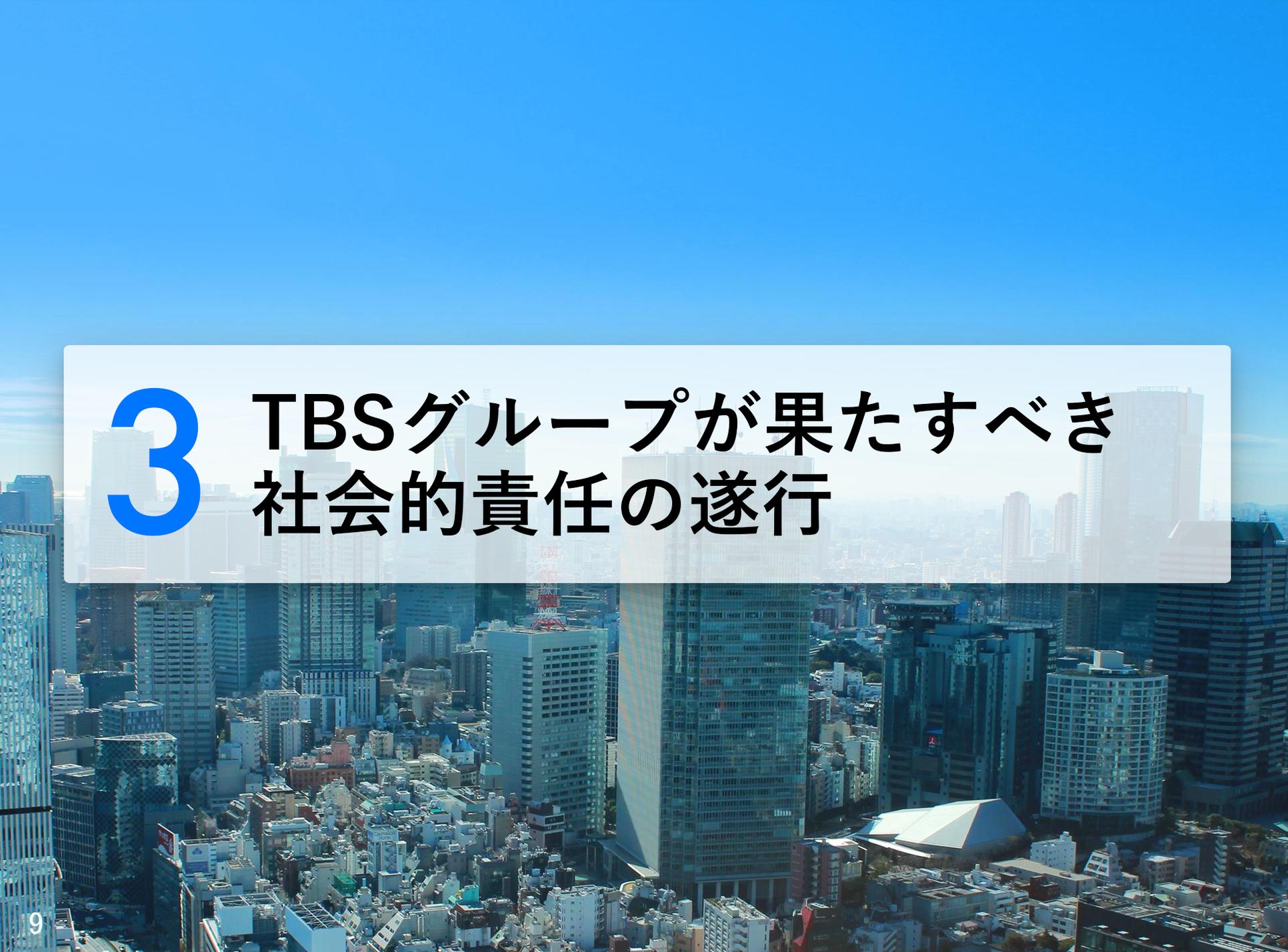
- ・ 民間宇宙開発に挑戦する「ispace」に出資
- ・ 日本初の「民間月面探査計画」で「映像技術開発」等の協業

新技術への対応

- ・ BS、配信の「4K」をはじめ、「VR」「AR」等の実用化
- ・ 業務提携等による「研究開発」の活性化

CVCファンドの拡大・新規事業及びM&Aの推進

2020年度までに **500億円規模の戦略的投資**



3 TBSグループが果たすべき 社会的責任の遂行

3 TBSグループが果たすべき 社会的責任の遂行

TBSグループとは… 有限希少の電波を預かる放送事業者を
傘下に持つことにより、高い社会的責任を果たすべき企業グループ

公平・正確な情報を発信

災害・緊急時には、
社会のライフラインとして機能

長期的成長の原動力として
「ESG」への積極的な対応

※ Environmental（環境） Social（社会） Governance（ガバナンス）

3 TBSグループが果たすべき 社会的責任の遂行

E

環境

- ・ 毎月6日を「グリーン電力」推進DAY
- ・ 生物多様性保全に協力

S

社会

- ・ 4月から「はなさかす保育園」「TBSユニバーシティ」
- ・ 「働き方改革」及び「ダイバーシティ」の推進
- ・ 東京パラリンピックに向けて「パラアスリート」と協調
- ・ 「DigiCon6 ASIA」を主催

G

ガバナンス

- ・ 企業理念実現へ「TBSグループ行動憲章」
- ・ 「指名諮問委員会」及び「報酬諮問委員会」の設置
- ・ 「政策保有株式」の保有意義を定期的検証

さらに放送事業者ならではの

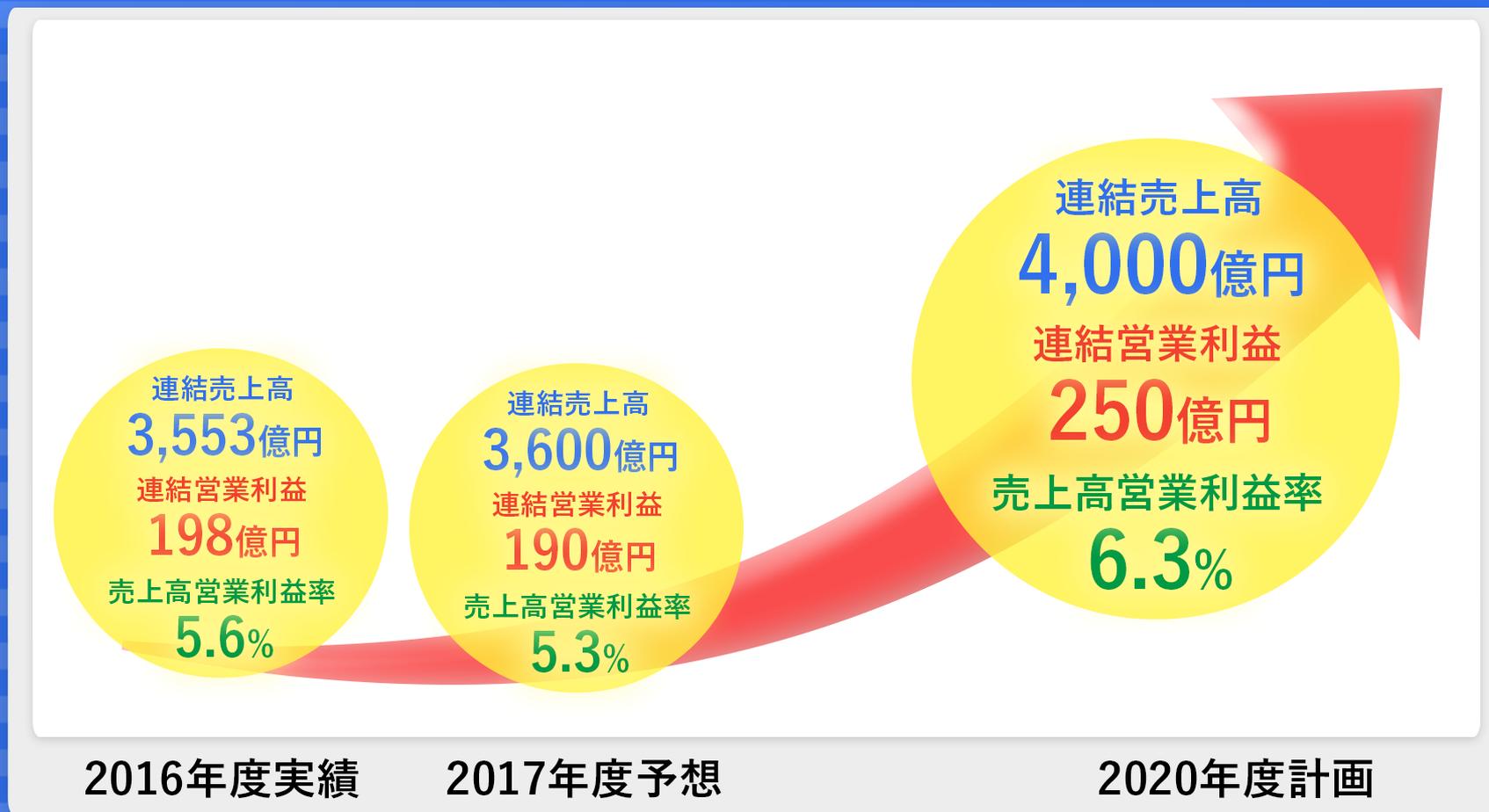
「SDGs(持続可能な開発目標)」への取り組み

「17の目標」の見地に立つ公平・正確な情報発信から



「グループ中期経営計画2020」 の達成目標

3つのアプローチで「TBSクオリティの確立」をした上で、



【参考】TBSテレビ 想定平均成長率(2016年度～2020年度)
タイム収入：+0.64%/年 スポット収入：+2.72%/年

2020年度セグメント別連結売上高・連結営業利益・利益率

	連結売上高	連結営業利益	売上高営業利益率
放送事業	2,450億円 (+258億円)	95億円 (+35億円)	3.9% (+1.2ポイント)
映像・文化事業	1,400億円 (+190億円)	85億円 (+23億円)	6.1% (+1.0ポイント)
不動産事業	150億円 (△2億円)	70億円 (△7億円)	46.7% (△4.2ポイント)
合計	4,000億円 (+446億円)	250億円 (+51億円)	6.3% (+0.7ポイント)

※()内は2020年度計画値と2016年度実績値の比較

安定的な成長等を前提とした、「株主還元」の充実を推進



From
TBS

【註】本資料にて開示されているデータ等は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。